

## 編集後記

昨年、2004年、東京地裁が青色LEDの特許発明者である中村修二氏に対して発明の対価として日亜側に200億円を支払うよう命じたにもかかわらず、最終的には2005年1月に6億円が妥当だとの和解が成立し中村氏が強い不満を示したことは、記憶に新しいことと思います。

発明の対価として個人にどれぐらいの金額を支払うかは、今後企業の発明報奨制度にも大きな影響を与えそうです。日本企業がきちんとした対価の支払いをしないと、日本から優秀な技術者がいなくなる可能性も大いに考えられます。200億円の夢は消えましたが、この判決をきっかけに日本の発明報奨制度が研究者のモチベーションを高め、諸外国のメーカーに負けない技術を磨ける環境づくりに寄与出来る様になってゆくことを願うものです。

青色LEDの発明は、表示デバイス、照明用光源、光ディスクの光源として幅広い用途に期待ができ、産業の発展に大きく寄与したと言えます。

LEDは、蛍光灯に含まれる水銀を使っておらず、長寿命で省電力、ランニングコストが安いということから、液晶表示のバックライトや照明での利用や研究開発が進められています。農業においても、太陽光の代わりにLEDを使い野菜を栽培する実験も進められています。

数年先には、街中や家の照明がLEDで埋めつくされ、蛍光灯が世の中からなくなるという日が来るかもしれません。

航空電子技報も、今回28回目となりますが、読者の皆様が、産業界の歴史に名を残し、世の中に大きく貢献できる発明が生まれるきっかけの一助になれば幸いです。

### 編集メンバー

石井 清	桜井幾久雄
請地 光雄	竹田 直身
大塚 佳朗	田中 淑雄
岡田 健一	野島 良明
小野川明浩	宮崎 勝
倉本 健次	(五十音順)

### 航空電子技報 NO.28 (非売品)

無断転載を禁じます。

2005年3月31日発行

発行人 瀧岡 泉 (中央研究所)

発行所 日本航空電子工業株式会社

TEL 03-3780-2711

制作 株式会社 東京クリエイティブ